

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

3頁 教皇フランシスコの訪日メッセージに込めて

4頁 乾隆神父のイタリア留学記(1)

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2020年 司教年頭書簡を読む(4)

愛の力

教皇フランシスコは、使徒的勧告「キリストは生きている」のなかで、次のように述べられています。

「このかたは愛です。それは、くじかせることのないものです。辱めることも威張り散らすこともしない愛です。それが主の愛、日ごとの、控え目で、丁寧な愛、自由な愛であり自由ゆえの愛、いやして元気づけてくださる愛。転倒よりも再び起き上がることのほうを見てくださる。禁じることよりも和解を望む、罪に定めるよりも新たなチャンスを与えようとなさる、過去よりも未来をご覧になる、主の愛です」。

教皇フランシスコの訪日を、過去のものにしてはいけません。私たちは、現代の日本の社会のなかで、福音のあかしをするように求められています。私にはできませんと、言わないでください。主の愛の力が私たちのうちに働いておられます。

「福音宣教」は、司祭やシスターの専売特許ではありません。現代社会に生きている信徒こそ、その第一の実践者です。

瀧野正三郎



5
2020

すべてのいのちを守るため
 『教皇フランシスコ訪日講話集』を読む②

「神の言葉の持つ力・神との出会いへと」

神の言葉の持つ力と、対話の大切さに注目してみることにします。

講話集のはじめに、菊池司教は述べています。「教皇の語られたすべての『言葉』は、今回の訪日のテーマである『すべてのいのちを守るため』という強い信念を、具体的な『言葉』として紡いだものでありました。語られた『言葉』の後に確固たる信念があるからこそ、『言葉』は多くの人の心に力強く響きわたりました。イエス・キリストへの信仰に基づいた確信であり、だからこそ語られる『言葉』は、いのちの重さを背負った『言葉』でした」。

ここで注目したいのは、それが「経験に基づく」とは言わずに、「イエス・キリストへの信仰に基づいた」とある点です。

聞き、みことばを、いのちとすること
 に始まるのです(参照 ヨハネ5・24、
 1・1〜15、ロマ10・17)。

ですから、デジタルの世界に飛び出して行く様な言葉ではなく、神の言葉を聞くために(マルコ7・31〜37) 神に耳を開いてもらわねばなりません。

神の出来事を見るために、神に目を開いてもらわねばなりません(マルコ8・22〜26、10・46〜52、ヨハネ9章)。

何故なら、その後起こる「いのち」を「救い」へと招く出来事は理解しがたい神秘を秘めているからです。でなければ、その神秘「いのちの源」に達することはできないのです。

イエス・キリストの助けがなければ、その神秘は掴めません。対話もまたそうです。対話とは「言葉を通しての出会い」とも言えます。

教皇は、「いのち」と「救い」について、「対話の文化」、「兄弟愛の文化」、そして、宗教的対話と説いておられます(ビデオメッセージと司教団への挨拶)。

即ち、言葉を通しての出会いです。対話は人格的な出会い、宗教的な対話に限りません。自然と環境との対話(和)を呼びかけておられます。教皇は美しい

日本の自然を愛し、それが福音的な輝きを持つ様に願っておられます。

対話について一つ思い起こしておきたいことがあります。

対話はまず、相手に対し心を開き、相手を尊敬と愛と謙虚のまことを持って、「聞く」ということから始まります。

「聞き方」には三つあると思います。

「ただ聞く(馬耳東風)」

「注意して聞く(興味を持って聞く)」

「心の目を開いて聞く」

二人の間で交わそうとしていることを「ダイアログ」と呼ぶようですが、この言葉は「会話を通して」と記すべきではないかと思えます。言葉を通して人の「心」に出会うのです。神様との出会いでしたら、神のいのちの言葉を通して神と「一つ」になるのです(コミュニケーション)。

「見方」についても三つあると思います。「ただ見る」、「注意深く見る」、「心の目で見える」(ヨハネ20・1〜9)。復活されたキリストに出会うには、この信仰の目が必要なのです。

神の神秘の言葉の「コト」を見るには、信仰の目を開いていただかねばなりません。この信仰の目と耳が開かれた時、神

との対話と出会いが生まれるというので
す。

さらに、人と人との出会いも、この神
との出会いを通して実現します。それは
人間が神の姿に似せて造られたからで
す。また、人間が神の息吹(いのち)に
よって生かされているものだからだと、
私は思います。

神と人との対話の根源は、その創造に
さかのぼることになります。

村上透磨

教皇フランシスコの

訪日メッセージに込めて

教皇は、青年との集いを通して、今を
生きる青年たちに向けて次のような様々
な問いかけをされました。わたしは、教
皇の呼びかけに込めていきたい。そのた
めに何が必要であるか、どのように働き
かけていくことができるのかを考えてい
ます。

●「自分にとって、最悪と思う貧しさは
何だろう。自分にとっていちばんの貧

しさは何だろうか」

教皇がおっしゃったとおり、わたしに
とってのいちばんの貧しさは、孤独で
す。誰も気にかけてくれないこと、誰に
も愛されないことが最悪の貧しさです。

この日、わたしは一人で東京に行く予
定でしたが、その先ではたくさんの青年
たちと出会うこと、再会することができ
ました。あっという間に仲間たちが集
い、安心させてくれました。わたしのこ
とを気にかけてくれる誰かがいること、
また、愛されていることを実感し、と
ても幸せだと
思いました。



こうして、教
皇が繋いでく
ださったよう
に、わたしも
一人でいる誰
かが安心でき
るよう、人と
人とを繋ぎた
い。わたしが
繋がりたいた
い。

そのために、
今、カトリッ
クの様々なグ

ループに顔を出し、まずはわたしがネッ
トワークを広げること、誰かと繋がり、
愛をもって関わっていくこと、そして、
わたしとみんなが安心できる居場所をつ
くることに取り組んでいます。

●次の問いを問うことを習慣としてくだ
さい。「何のために生きていくのかで
なく、だれのために生きていくのか。
だれと、人生を共有しているのか」

教皇は「世界はあなたを必要としてい
る、それを決して忘れないでください。
主は、あなたを必要としています」と
おっしゃっています。目標をみつけた今、
わたしは、孤独を感じている人のために
生きていきたいです。でも、まずは身近
なところから：家族や友だちがわたしを
必要としてくれていようかと信じて、
信頼できる仲間たちと人生を共有してい
こうと思えます。

最後に。今、わたしは京都カトリック
青年センターでたのしい時間を共有する
ための企画、運営をしています。また、
望洋庵でお祈りをしたり、働く人の家で
人生を共有したりと、それぞれに異なる
ねらいをもった場所に足を運んでいます。

伊勢教会 濱口聡子

乾隆神父のイタリア留学記(1)

京都教区司祭 大塚乾隆

教区時報五月号の原稿の締め切りは三月二十五日。少し前なら、二ヶ月先のことを予想することは難しくありませんでした。しかし、今は二ヶ月先「コロナウイルスの問題」がどうなっているか全く分かりません。イタリアにいたので、日本から心配のメールをたくさんいただきました。しかし、私がいるペルージャ(ウンブリア州)は比較的感染者が少ないので、大きな混乱はないように思います。

三月半ばからレストランやお店が休業になり、「今までできたことができなくなりました」という点で、生活に不便は感じていません。半年前に日本を発った時点で、私の好きな銭湯や日本の食べ物とお別れをしてきました。銭湯に行きたいなとか、〇〇が食べたいなという思いはあってもどうしようもありません。「ないものはないのだから、その中でどう楽しむか」を考えています。今、ピザを食べに行く

こともできない、バーでコーヒーを飲んでおやつを食べることもできない、どこかに出かけることもできない…と「できない」ことだらけです。このように書くこともできません。でも、数ヶ月住むことで少しは「イタリア化」したのでしょ。そこまで心配していません。

コップに半分の水があるとき、半分しかないと考えるのではなく、多くのイタリア人のように半分もあると考える方が性に合います。色々なことが制限されていく中で、「あれができない、これができない」と腹を立てるのか、「あれができないなら、これをしよう」と考えるのか、私は後者の生き方を選びます。基本的に、外に出て人としゃべるのが好きなイタリア人が、外出禁止を言い渡され、人との距離を1mとらなければならぬというのは「犠牲」以上の何物でもないでしょう。しかし、ホッとしたのは、イタリア人のメンタリティーは変わっていません。出られるところで騒ごうと、みんながバルコニーで歌を歌い、楽器を鳴らし、踊り…根っからの明るさを感じるこ

とができました。日本でも自粛モードになってはいるようですが、心まで自粛しなくても良いと思います。また、何に喜びを見つけるのか、振り返る機会にもなると思います。

ペルージャでの生活を紹介します。月曜から金曜は語学学校に通っています。基本的に毎日ミサもしますが、色々な場所です。教区司祭として私は信徒の皆さんとの関わりを大切にしたいからです。私の拙いイタリア語の朗読や説教を「ブラボー」と言って聞いてくれるイタリア人の国民性に感謝しています。

(この記事は三月二十二日に送られて来たもので現在の状況とは異なります。)



主の降誕の夜半ミサ

病者・高齢者奉仕講座
「命を尊ぶ」

「キリストの死と復活」

講師 菅原友明師
(京都教区司祭)

●「古い、病、死」と宗教

江戸時代の流行り歌にこんな歌があります。「しあわせは、いつも三月花の頃。お前十九で私わや二十歳は。死なぬ子三人、親孝行。使って減らぬ金百両。死んでも命がありますように」。この歌のように若く健康で楽しい毎日が永遠に続くならこの世に宗教は必要ないでしょう。しかし私たちはいずれ病気になる、年老いて、死に行く者となると、自分はどうなるのかを深く考えます。そして先に結論を言うと、高齢になり病気になるって死んでいく、この十字架が復活であり



救いであるということです。十字架がそのまま復活であることに、人々のまなざしを向けるのが宗教です。

●人間は何によって生きているのか

強制収容所での過酷な体験を書いた「夜と霧」の著者であるヴィクトール・フランクルは次のように言います。「人間はどんなに辛い過酷な状況にあっても希望さえあれば生きていける。生きるために希望が、言い換えれば生きる意味が見いだせれば人は生きていける。人生に意味があるのなら教えてほしいと問うが、そうではなく人生が人間に問いを発している。人生からの問いは各人の足下に絶えず送り届けられていて、その人に見いだされ実現されるのを待っている。従って、どんな時も人生には意味がある」。若い時はたくさんの、この世的な希望があります。でも誰もがいつか必ずこの世に何の希望もなく、苦しみ死ぬだけという状態になります。その時にどういう希望を見いだすことができるのか。これが病者・高齢者に向き合う時に大切なことです。

●キリストの死と復活

マルコ福音書は八章のペトロの信仰告白

白を境に〈第一部〉と〈第二部〉に分けることができます。〈第一部〉で多くのいやしや奇跡を行うイエスを見たペトロは、〈第二部〉の最初に「あなたはメシアです」と信仰告白します。しかしその後直後に受難予告がされるとイエスをいさめ始めます。ペトロに対してイエスは、あなたの思いは人間的な希望なのではない、神の目的である希望を抱くように導かれます。私たちも、人間的な希望を満たし実現していく人生の〈第一部〉から、必ず〈第二部〉の十字架へと移行していくのです。キリスト教の教えは「キリストの死と復活」です。人間の目には十字架しか見えなくても、十字架と復活は全く同じことなのです。

「終末期に寄り添い、看取るということ」

発表 西川加之子氏
(看護師・カトリック看護協会・河原町教会信徒)

●終末期に起こること

〈終末期を在宅で看取るための「大切な3つのこと」〉というものが京都地域包括ケア推進機構から出されています。

- ① かかりつけ医に最期までについて相談する
- ② ご本人とご家族みんなできっかりと話し合う
- ③ ご本人の身体にこれから起こることを知っておく

今回、西川さんは主に③についてお話しくださいました。

まず『看取りのパンフレット』(2011) (OPTIM緩和ケア普及のための地域プロジェクト出典) を紹介されました。このパンフレットは高齢者の終末期に起こることで知っておいて欲しいことが大変わかりやすくまとめられています。

この中に次のような文章があります。

・39度前後の高熱が出る時があります。これはお別れの前に残っている力を出し切ろうとする反応です。(略)

・患者さんは体の中をきれいにしてから旅立とうとされます。そのため場合によっては、嘔吐・吐血・下血・多量の排便などが起こることがあります。

(傍線は編集者加筆)

これを読んで西川さんはとても反省したと言います。それまでこの様な状態の患者を見れば、体が機能不全を起こして死が近いとしか思わなかった。それは事実だけれど、傍線部分のような考え方はなかった。医者(看護師)は体は見ても人は見ないと言うが、まさに自分がそうだったと気づいたそうです。

●看取りは次の命への橋渡し

そして、ご自身の祖母の旅立ちの時、母親と一緒に祖母に留袖を着せた、それは「次の命へのお興入れ」の意味だったというエピソードから、キリスト信者にとってまたカトリックナースとして看取るといふことは、この世の終わりのケアではなく、次の命を生きるための橋渡しをする役割ではないかと思っていますと言われました。

●看取りの時にして欲しいこと

パンフレットの内容に加えご自身の経験から、顔や手を拭いた後は必ず乳液などで保湿し、リップクリームで唇の乾燥を防いであげると、終末期の旅立ちのお化粧がとてもきれいになるそうです。

●終末期における家族の判断について

終末期において、胃ろうの造設、在宅介護か施設介護か等、判断しなければならぬことが色々あります。では誰が判断するのでしょうか。西川さんは実際の看取りの実例を紹介し、またご自身の介護経験も踏まえ、本人の意思決定が難しい場合、元氣だった頃の考え方を尊重し、家族が決定する。答えは各家庭によって違うので正解はない。介護をしているキーパーソンの意見も尊重して欲しい。いずれの決断をしても家族みんなが「最善を尽くせた」という達成感があれば、悔いが残ることは少ない。看取りの場合の介護方針は本人が「つらくない」ことを一番に考えてください、と語られました。

講話の後、「私は病氣・死をどう受け止めるのか」というテーマで分かち合いを行い、祈りの時をもちました。受講者からは「とても参考になった」、「終末期にどういふことが起きるのか具体的に分かった」、「喜びをもって介護を続けられます」との声を多数いただき、意義深い講座となりました。

福音宣教企画室

5月のお知らせ

教 区

聖書委員会 / Tel.075(366)6609 ㊦㊧

聖書講座

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、今年度11月までのすべての講座を中止いたします。

よく分かる聖書の学び

当面の間、休止いたします。再開が決まりましたら、京都教区のホームページにてお知らせいたします。

諸 団 体

京都キリシタン研究会

都の聖母奉賛ミサ

日 時：10日㊦ 14:00~16:00(予定)

会 場：河原町教会地下聖堂

- 公共交通機関でおいでください。
- ミサ後、交流の集いをホールで開催します。
- ご希望の方には將軍塚への巡礼をご案内いたします。

参加自由 / 問合せ：090(2381)4630 古澤

京都カトリック混声合唱団

練 習：10日㊦ 14:00 洛星宗教研究館

23日㊦ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂

31日㊦ 14:00 洛星宗教研究館

コーロ・チェルステ(女声コーラス)

練 習：7日㊦ 10:00 / 21日㊦ 10:00

28日㊦ 10:00

河原町教会聖堂 2階楽廊

聴覚障がい者の会

手話ミサと交流会

12日㊦ カトリック彦根教会にて開催
予定でしたが中止になりました。

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：10日㊦ 15:30~17:30

対 象：15歳~35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野

心のともしび 番組案内

ラジオ(KBS京都) ㊦~㊧ 朝5:55 ㊨ 朝5:15

(ラジオ関西) ㊦~㊧ 朝5:00 ㊨ 朝6:05

5月のテーマ「親と子ども」

6月のお知らせ

京都教区カトリック正義と平和協議会

/ Tel.075(366)6609 ㊦

学習会「多国籍共同体を生きる」

日 時：6日㊦ 14:00~16:30

講 師：アントニオ・カマチョ師

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

京都教区神学生の出水洋氏が、3月28日㊦河原町教会で、大塚司教より、「助祭・司祭候補者認定」を受けられました。

聖パウロ学園について

4月1日付で、カトリック校としての認可を受け、名称変更しています。

*光泉カトリック中学校

*光泉カトリック高等学校

〒525-8566 滋賀県草津市野路町178

TEL. 077(564)5600(代)

FAX. 077(564)5136(代)

*光泉カトリック幼稚園

〒520-2131 滋賀県大津市三大寺9-1

TEL. 077(545)3410

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛に Fax.075 (366) 6679 か honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

尚、電話番号が変更になっています。

※ 7月号の原稿締切り日は5月27日㊦です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念されますので、記載された行事等開催の是非につきましては、諸団体に直接お尋ねくださいますようお願いいたします。

